

党建設における組織の柔軟性 ——大衆団体と党との関係——

六 組織問題についての演説

1912年1月11(24)日

問題のもう一つの面に言及してみたい。それは柔軟性の問題である……決議は正しかった*。私は、どの面が重要であるかに注意を喚起したい。一例として合法団体をとろう。ロシア全国について述べることはできないが、五つの都市については、なにが……可能であるか述べることができる。では、合法団体は、まずなにをしているのか？ マルクス主義的な講義である。それは、どうやら、許可されているようである。新聞でみると、大都市では許可されている。講師を見つけることがむずかしい、という人がある。労働者は自分で講師を抜擢し、自分で金を払うべきである。つぎに図書室と読書室がある。『ズヴェズダ』をとる許可がおりているかどうか、私は知らない。つぎに、合法団体は、いろいろな娯楽行事をしている。これは、財政上の面から重要であるが、他方では、これらの娯楽行事のおかげで、クラブのようなものが生まれている。さて、こうした型の団体が虚構ではなくて現実であるならば、そしてこれは疑う余地のないことだが、そうであるならば、われわれは、こういう団体の拡大のためにわれわれは働いたかどうか、という問題を出さなければならない。われわれは、これらの団体のことについて工場で報告しただろうか？

こういう団体を組織する努力をしただろうか？ さらに、こういう団体をどのように利用することが必要だろうか？ われわれは、いまや、社会主義者取締法の時代のドイツの組織の型に近づいている。だがわれわれにとってはいっそうむずかしくもあるし、いっそう容易でもある。いっそうむずかしい、というのは、彼らのばあいには合法的可能性が開かれていたからである。中央委員会は国会議員団のメンバーから成っていたし、合法的に会合をひらき、非合法活動家を招いていた。一方、われわれのばあいには、大衆のなかには多くの同情があるし、社会民主党にたいする支持がある。われわれのばあいには、各団体のなかには、たいして大きくはなくても、党とかたく結びついた社会民主党細胞がなければならぬし、どの問題も党の決定の主旨にそって解決されなければならない。……この細胞は、地区または小地区のように、大柄なものであってはならない。ペテルブルグ、リガは、合法団体の型に近づいている。モスクワでは、この点たいしたことはしていない。ところでこれらの細胞は、党建設の他の型を可能にする。以前、私がやったところには、われわれはなんでも自分でやらなければならなかった。

ところでいまでは、労働組合や労働団体が仕事の一部分を負担してくれた。合法的な国会議員団も可能なかぎり政治闘争をしばしばおこなっており、もしこういう構造の合法的団体がもっと多くなれば、革命は不敗のものとなるだろう。これが、とりもなおさず組織の柔軟性の問題である。これは、わが党の再建の理想であろう。合法的な細胞の網でとりこまれた、これらの非合法の細胞は、われわれに新しい基盤をあたえるだろう。あらゆる連絡は、組織があるかないかわからないくらい最小限になる。会議もなくてもよい。党活動は別の形態をとるようになった。新しい形態は、もう古い形態のなかにくいこんでいる。あまりはつきりしたかたちのものでなくとも、合法団体のなかでの活動によって拡大する党活動があればよい。文化への一步一步に社会民主主義的精神、社会民主主義的文

化が浸透していることが必要である。これは、解党主義との断固たるたたかいとなるだろう。細胞があり、中央機関紙と結びついており、年に一度連絡をとり、以前の百倍もの仕事をする。われわれは合法的団体内で不十分にしか仕事をしなかった。これらの団体を自由主義者の手からもぎとり、合法的運動全体をもぎとらなければならない。合法団体を普及させ、拡大することが必要である。合法団体内の活動がどうなっているか、具体的に注意をはらうべきである。どこでも非合法の細胞を合法的細胞の網でとりかこむべきである。

* 1908年12月21～27日にパリでひらかれたロシア社会民主労働党第5回協議会で採択された組織問題にかんする決議をさす。

注) ……は本文中の表記。

第41巻『六 組織問題についての演説』P310～312 1912年1月11(24)日

手書きの議事録によって印刷

1965年に『レーニン全集』第五版、第54巻にはじめて発表